

橋下大阪府知事の博物館統合策に対する私見

二〇〇八年四月八日 直木孝次郎

一、われわれは今から六、七十年前、戦争という大きな誤りを冒した。新しい日本は過去の歴史を学ぶことより出発した。博物館も単に古いものを陳列するためではなく、過去をよく知ること将来に貢献しようという大きな理想をもって出発したはずである。過去の社会や生活の状態を知る教育機関としての博物館の存在は大切で、今後ますます発展させるべきである。

二、われわれが過去の歴史から学ぶべきことはたくさんあるが、人間が社会のなかで生活し、社会とともに発展することとを理解する上に、博物館が貢献することは、たいへん大きい。図書館も重要だが、書物には書物の限界がある。百聞は一見にしかずという諺があるように、博物館の展示が歴史の理解をすすめる力は大きい。私はとくに社会の中の人間を考える場として、博物館の貢献を高く評価したい。

三、人間に個性があるように、博物館もそれぞれ特色がある。ことに大阪府の博物館は設置の当初から特色をもち、その特色にそって発展して来た。博物館はそれぞれの目的に応じて設計されている。それを一つに統合すれば、どの博物館も自己の特色が発揮できなくなり、博物館活動を停止せざるを得なくなる恐れがある。職員は自分の能力を生かす場を失い、蓄積した大量の資料は死蔵されることになるであろう。秦の始皇帝の焚書坑儒の坑儒とはいわないが、焚書にも比すべき暴挙といわざるをえない。

(以上)